

## 「島のしくみ」 レポート

工学部化学生命工学科 2年

2511300174 高祖 侑

今回、集中講義「島のしくみ」で与論島へ行かせてもらいましたが正直、講義を受ける前まで与論島という場所はおろか、名前も知らないという状態でした。しかし昨年、この講義を受けたという友達からこの講義をすすめられ、今までは海外にしかといえるほど海外に興味を持っていた自分ですが、昨年の1年間オーストラリアへの語学留学を経て日本という国の素晴らしさを感じていて国内にも少し目を向け、興味を持っていこうということで今回与論島という鹿児島県の最南端の島へ行ってみたいという決断をしました。

そして、船に揺られること約20時間、与論島についてみると、個人的には初めて南国の島に行ったのですがこんなきれいな海が世界には存在しているんだなというのが与論についてからの最初の感情でした。それくらいきれいな海でした。

与論島へ行く前に大学での与論島についての情報などを野田先生の講義で聞いていましたが、最初はなぜこんなきれいな島への観光客が減少しているのだろうと不思議でなりません。しかし、町長さんや、観光協会、農協、漁協の方々からの話や自由行動で街中を散策していると薄々とその原因が分かるようになりました。まず、自分は過去の与論の海を見たことはありませんが、話によると地球温暖化などによりかつては浅瀬にもあったサンゴの減少によって昔ほどのきれいな海ではなくなったこと。もうひとつに、町にあるホテルや旅館が古くなっていること。これは、観光客が少なくなって外壁や内装を公示するお金がないという理由もあるかもしれませんが正直見てて気になりましたし、雰囲気として昔は観光地だったけど今はその名残で古びれちゃったんだなという印象でした。

そこで、どうしたら与論島をまたかつてのような姿に活性化することができるのかと自分なりに考えてみましたところ、やはり与論はあのきれいな海、特に百合が浜を推している、いろんな人々に知ってもらいたいと思います。また、以前テレビで世界中のいろんな島へ行ったことのある人がその中で1番の島が与論島と話をしたそうなので、与論島はすごいポテンシャルを持っていると感じ、自分がそうであったのと同じようにたくさんの方がただ与論島を知らないだけだと思います。なので、与論島をいろんな人に知ってもらうためには、まず、観光客の多い沖縄や近くの沖永良部、奄美大島などと連携を取って、島めぐりツアーなどを企画し与論島を知らない人たちに少しずつ与論島のことを知って回れるようにすることが大事だと思います。また、自分が実際に船で行った正直な感想としては、20時間もの長い時間プラス、フェリー代もそんなに安くはないと思ったので与論島に行きたくてもそんなに簡単にはいけないなと思いそうなのでそこで、与論から近い沖縄や奄美のようなところからもっと早く安くいける方法ができると与論島へ行きやすくなる観光客が増え、今よりもずっと与論島は活性化するのではないかと思います。

また、前のほうでも言いましたが街の景観ももう少し改善できるともっといいのになと思いました。与論の海はとてもきれいなのに、海の近くのホテルや建物の雰囲気がもう少しだと思うので建物を建て替えたりきれいににするというよりは、街の一部で多く見られた南国らしさ（植物だったり、壁の色を統一したり）をもう少し町全体にみられるようになれば、観光地としてほかの観光地にも負けない観光地にもなりうると思います。

他には、百合が浜での結婚式などのイベントを催してみたら面白いなと思いました。月に2回、しかも夏の間しか現れないという期間限定さは女性にとってはロマンチックであり、新婚旅行地としての与論の見どころなるのではないかと思います。

最後に今回、3泊4日という短い与論での滞在となりましたが、あの南国特有の景色や人々、風習を十分に満喫でき、与論についたとき最初に見た与論の海はおそらくずっと忘れないと思うくらいきれいでした。また来るときはその海の景色が今回のものと同じもしくはもっときれいな海であり、かつてのように栄えていることを願います。